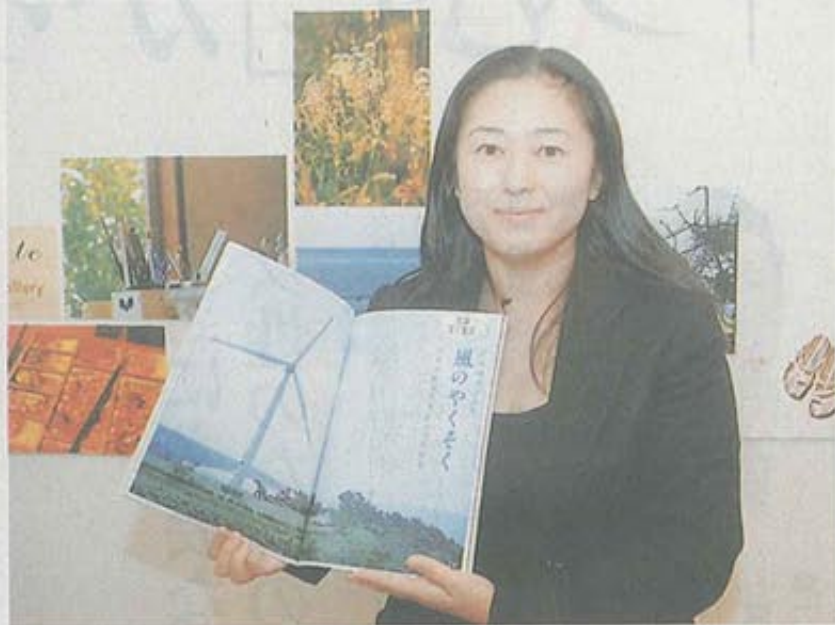


私を中部に「てーてーてー」

全日空機内誌元編集者 Uターン 岩世さん

県中部を取り上げた情報誌「tetete」が創刊された。全日本空輸グループの機内誌「翼の王国」の編集に約10年携わり、故郷に戻った倉吉市在住の岩世麗さん(45)が編集長を務める。人や店、風景など県中部ならではの魅力を引き出している。(中田和宏)



「tetete」第1号を手にする
編集長の岩世麗さん 倉吉市山根

情報誌の名は「てーてーてー」と読む。県中部の方言で「連れてって」の意味だ。30

〜40代の女性を読者層の核に据えて、「中部再発見」をテーマに企画を練る。

若者に人気のバックメーカー「吉田カバン」の元チーフディレクターで、アパレルメーカー「ポーター・クラシック」代表の吉田克幸さんが三徳山(三朝町)や倉吉市の左官職人を訪ねる旅があったり、シユガークラフト作家や弦楽器製作者ら県中部で自分らしく生活する人々に焦点を当てたり。

地元の民芸を扱う店や手作りケチャップ、みその紹介など様々な角度から地域の情報を掘り起こした。風車を始め、県中部の風景写真もふんだんに盛り込んだ。

岩世さんは「翼の王国」編

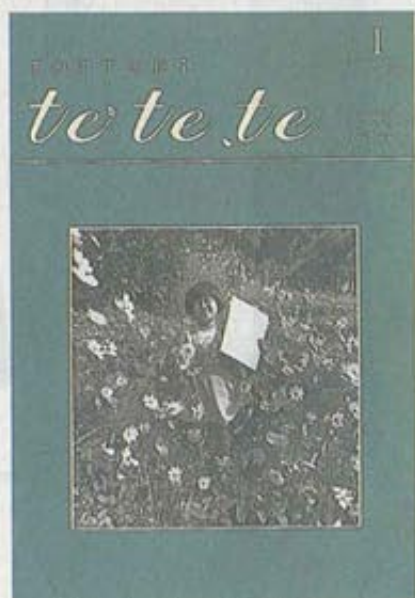
30〜40代女性狙い 情報誌創刊

集部やIT企業の総務部長を務めた後、実家の都合で2006年に東京からUターンしてきた。情報誌作りのスタツフを募る鳥取中部ふるさと広域連合の求人に応募し、地元の手作りケーキ店の紹介冊子や「tetete」の創刊準備号を手がけた。

田倉暮らしに仕事の有無は重要だが、いかに面白く楽しく過ごすかも大切という。「つまらない場所と思ってしまうと、若い移住者やリタイア後のUターン組の中には慣れ親しんだ都会的な暮らしが恋しくなる人もいるはず」。アンテナを張り巡らして興味をひかれた情報など県中部の楽しみ方を詰め込み、10月末

に第1号を出版した。20年来の友人の吉田さんを始め、東京で培った人脈が編集に役立った。「鳥取は良かった」と東京に帰った吉田さんに言ってもらえれば影響は大きい。情報誌を県中部と東京をつなぎ、人と人をつなぐ武器にしたい。情報は更新されてこそ生きると考えている。「一度掲載して終わりではなく、常に進化する店や味を別の視点で見直し、再発見して住民に地元の魅力を伝えたい」と言う。

情報誌は年2回発行。創刊号は126頁、500円。ホームページ(<http://totor1tetete.com/>)からも購入できる。



「tetete」第1号